

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム 榎内

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・榎内		
所在地	岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	平成 29年 10月 13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/idx.php?act=on_kouhyou_detai_2017_022_kani=true&amp;lgvsvocd=0390200202-008PrfCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/idx.php?act=on_kouhyou_detai_2017_022_kani=true&amp;lgvsvocd=0390200202-008PrfCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 10月 26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サービス提供側が忙しい雰囲気を可能な限り作りださない様にしている。ゆったりとした空気間という様なものを表出出来る様に業務を行っている。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念や介護指針に基づき本年の目標を定め、施設内に掲示しているほか、会議資料などにも掲載し、関係者や職員、利用者・家族の皆さんも理解、共有するよう工夫した取り組みをしている。運営推進会議の委員を通して、中学校や高校の訪問、体験学習受け入れに対応するとともに、地域ボランティアや他の事業所との交流機会があるなど地域との交流を大切にしている。また、身体拘束廃止委員会や事故検討委員会を独自に設置し、利用者や家族の安心、安全を確保している。さらに、職員の提案や資格取得の要望を受け、施設等の整備や受験指導を行い、職員の就業意欲や知識、技能の向上に取り組んでいる。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	●介護指針 ・利用者を尊敬します ・家庭的でくつろげる場所を目指します ・介護技術の向上に努めます ・明るい職場環境を作ります	法人の理念、介護方針のほか、本年の目標を定め、毎日の申し送りや、職員会議を通じて理念等を共有し、利用者を楽しんでいただけるよう日々の生活の中で、利用者へ寄り添い、運営課題を抽出、検討し、利用者へのより良いサービスの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	●田老第一中学校の吹奏楽部の生徒様による演奏会や体験学習をグループホーム椋内にて催し事などを行い、生徒様方との交流を図り、利用者様も楽しまれている。文化祭への招待を受け交流の機会を頂いている。 ●今年も地域の方々より声をかけて頂き利用者、職員参加をさせて頂いている。	中学校の吹奏楽の定期的な演奏や中学生、高校生の職場体験、地域ボランティアの合唱などを受け入れている。また、文化祭の見学、地域の花壇の整備、農家からの野菜の提供、他の介護施設等との職員派遣などを通じて、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	●運営推進会議において事例や介護に関する検討又演奏会などの告知などを行う事によって地域の方と利用者様の交流を図る事が出来認知症をお持ちの方の理解に繋がっている。 ●田老第一中学校や宮古で活動されているボランティア合唱団(木曜会)のボランティアコンサートがホームで行われる際にはご家族様なども参加され皆様楽しまれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	●利用者様の平均介護度や平均年齢について、月間での行事内容や事故報告があった際の情報は運営推進会議で共有し又教育機関や他介護事業所、駐在所などの情報についても共有し業務における参考にもさせて頂いている。	委員の提案により会議資料に法人の理念や介護方針を常に掲載し皆で共有している。また、消防署員や警察官を招き、関連事項の説明や指導を得ているほか、市内の他グループホームとは互いに職員が会議に出席して事例等を情報交換し合い、業務運営の参考としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	●運営推進会議に毎回出席をして頂いている。 その中で行事内容や事故報告など情報の共有を行い又市町村担当者の方からも地域関連の情報を頂いている。分からないことがあった際には随時担当の方と連絡をとる協力関係を高めて行けるようにしている。	運営推進会議で市の担当者から、各種行政情報の提供と助言を受けるほか、制度の改正説明会や研修会に出席し、指導を得ている。また、介護認定申請など家族の依頼を受けて手続きを行なうなど、業務関連の連絡を取っている。さらに、市の防災端末を設置し、緊急情報の入手のほか、防災対策、避難場所の確認など各種情報も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	●身体拘束廃止委員会を発足し言葉によるスピーチロックや具体的な行為に関する話し合いを定期的に行っている。玄関の施錠に関しては職員に周知を行い現在はなし。今後も拘束等ないように定期的に委員会又は職員会議での周知は重要である。	法人内の2つのグループホーム協働による身体拘束廃止委員会を設置して、様々の事例等を検討して業務に活かしている。内部研修として職員会議でも話し合い、職員に周知徹底を図っている。玄関の施錠は夜間のみで、センサーマットは設置していないが、転倒予防のため、一部布団に鈴を付けその音に気を付けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	●権利擁護について外部研修への積極的な参加をこころがけ、学んできたことを事業所内で内部研修として知識を深めている。 ●身体拘束廃止委員会や事故検討委員会などでの事例検討において見過ごされる問題を解決しなければならない問題として話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	●利用者様に一番身近な存在であるのは私達介護員であることを職員会議等で話し、声掛けなどに関しても利用者を擁護出来ているのかについても検討する機会を設け注意喚起につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	●契約の際には何度も疑問や理解に困るようなことが無いかなど確認をとりながら説明を行っている。自宅に戻って契約書を確認し分からないことや聞きたいことがあれば連絡を頂けるように契約終了後に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	●運営推進会議などにご家族や利用者様にも参加して頂き、意見や施設についての感想を頂いて施設としての参考にさせて頂いている。 ご家族様が来所される際には声をかけやすい雰囲気意識して業務を行っている。	家族の訪問時や通院時の家族同行の際に、要望や意向を伺うほか、毎月利用者の状況が分かるように居室担当によるお便りを、意見等を聴いている。利用者や家族からは、食事準備、モップがけなどの手伝い、外出、畑仕事等の要望があり、対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●月ごとに職員会議の時間を設け職員の考えや意見を聞き、その内容を職員全体で検討して業務に反映させるような話し合いをしている。	毎月の職員会議では様々な改善意見が出され、温度計や湿度計の設置や、避難訓練の際の居室からの退避の有無を確認する名札ホルダーの設置などのほか、勤務日程調整や資格取得への支援等への要望にも適切な対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	●職員等の勤務状況を毎月管理者に確認し、報告を受けている。また、処遇についても実績を把握し、整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	●新人職員のOJTはもちろん、機会があれば、外部への研修を積極的にうけてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	●同地区にある別法人の施設と毎月運営推進会議を通じて情報交換をお互いのサービスの質を向上させている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	●ご本人との初回面接の際に不安な事やどのように過ごしたいのか、日々の生活の中での楽しみとなるものが何なのか？を聴き相手に失礼の無い様に相手の波長に合わせてながら距離を測っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●初回のご家族や主介護者、キーパーソンとなる方の要望や対象となる方が今後施設にてどのような生活を送ってほしいのかをきき、相手の波長に合わせて会話をするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	●初回の利用者様とご家族様との面会の際には今何が一番大変なのか又はどの部分に関して不安を感じているのかを捉え、事前情報と照らし合わせて施設内での支援を決める様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	●利用者様と一緒に作業や家事などを行うという事に着目しながら業務を行っている。グループホームならではの共同生活ということを常に意識し利用者様が言いたいことを言えるような雰囲気作りを心がけ関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	●家族様が来所される際、あとは御家族様への手紙、電話連絡の際には客観的事実のみの報告ではなくたわいもない話を織り交ぜコミュニケーションを図るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	●利用者様ごと思い出の人や場所は十人十色でその思い出話をきき、キーワードとなるものに関して質問などをコミュニケーションを図るよう心がけている。	家族のほか親戚、友人の訪問や、地域のボランティアの合唱を通じた馴染みの方々とのつながりがある。漁港などへのドライブの際に、自宅訪問や馴染みのスーパーでの買い物支援などを行なっている。こだわりの美容院でのパーマをする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	●利用者様事にあう、あわないなど関係性があるので職員で情報分析を行い席がえを行い、調整を図っている。 ●業務を行う中で通いすがりに一言でも声をかけ反応や表情をみている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	●契約終了後も地域で家族様や通院時に利用者様だった方とお会いした際には必ず話をかけるように努めている。 ●現在の状況やどのような生活をしているのかを聞くように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	●ご本人がどのような生活を在宅の際、もしくは入所前に送っていたのか把握するとともに好きな事や嫌いな事などのような時代を生き抜いてきたのかを把握し話をするように心がけている。	利用者の個性を大切に、日常生活に関わる掃除や、洗濯物のたたみ、調理の手伝いなど、本人の意向に沿いながら、生きがいづくりや意欲につながるよう対応している。また、和服の装着、髪への椿油の利用など、こだわりにも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	●在宅時にどのような生活をどのような介護サービスを受けていたのか、どのような人的環境の中で生活していたのかなど把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	●現在の心身の状態やどのような作業が重く負担がかからず出来るのか、どの部分に関して支援が必要なのかを把握できるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	●利用者様事に各担当者を設けることにより、利用者の要望やサービスが必要な部分の明確化を図りそれに対してのサービス内容を見つけ介護計画として作成している。	居室担当者による月1回のモニタリングと生活情報を得て、カンファレンス会議で話し合い、家族の要望や医師の指示や看護師の指導を得て、家族の同意の下に計画の変更を3か月に1回実施している。本人や家族の意向に沿い、より良いサービスの提供に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	●日々の様子や、変化に関しては業務日誌や申し送りを通じて情報の共有を図りながら次回の計画もしくは関わりかたの修正・調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	●利用者様が持つ要望や不満があった際には話をきき、解決しなければその問題に関して次の支援を考える様に心がけている。事例として外に出たいや外出をしたいという要望が強い方についての対応など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	●利用者様に関する人的社会資源や在宅の際から利用してきた店や理容室などへ繋ぎ、ご本人が持っている要望やこだわりという部分に関して応えられるように心がけ、日程の調整などを行い支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●ご本人が在宅時、もしくは当施設に入所以前にかかっていた病院や診療所に定期的に通院をし、施設での生活状況や変化を伝え医療サービスを受けさせていただいている。	かかりつけ医の受診を継続しており、眼科、皮膚科など利用者によってさまざまである。緊急の場合はホーム協力医の病院が対応している。受診は家族同伴が原則であるが、家族の要請により職員が同行している。なお、医師の指示は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	●日々の生活の中での利用者様の変化や問題点を定期的に来られている訪問看護師に伝達、報告をし、アドバイスや指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	●入院した際には次回の検査結果が出る際もしくは地域医療連携室に足を運び情報をもらうようにしている。分からないことが発生した際には病院に連絡をし担当の方と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	●主治医より癌の宣告や回復の見込みが見られない事を伝えられた際には家族様と一緒に介護支援専門員が同行し医師の話を聴いて頂き、施設、家族双方が納得できるカンファレンスを開き、その内容や情報を施設職員で共有しチームで支援することを心がけている。	重度化対応について利用契約の際に、本人や家族に説明しており、重度化した場合は改めて家族の意向を伺い対応している。看取りについては、かかりつけ医の指示と家族の同意を得て、実施した経験がある。その後、看取りの振り返りを行い、感想や課題などをまとめ、未経験者を含め内部で研修を行い、次に活かしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	●利用者様の急変や事故発生時に備えて、職員で連絡網の確認や訓練もしくは内部研修などでの確認・学びの場を設け実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	●運営推進会議などでの繋がりを機会にして地域の方を交えての避難訓練を行い、夜間想定や昼間の人員での避難体制の確認などを行っている。	総合訓練、夜間想定訓練を消防署員の協力得て実施している。また、地域の自治会へ協力を依頼し、民生委員による避難者の見守りを行なった。市の情報端末を設置した。緊急情報の入手のほか、特別災害のハザードマップの閲覧と避難場所を確認している。備蓄食料、用品、ガスコンロ、ストーブを備蓄しているほか、法人タクシーからの電気供給支援も確保している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	●利用者様によって、プライドやプライバシーも各々であり気分を損ねないような声掛けをするように職員全体で心がけている。	個人情報、個別にファイル保存のほか、パソコンでパスワード管理している。家族等へのお便りへの写真掲載は、家族の同意を得ている。自宅訪問、周辺のドライブも可能となっている。声掛けも方言など、個別に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	●利用者の方々が日々生活する中で自分の気持ちや考えを出せるような雰囲気や環境作りを心がけ、自分で決められそうなものは可能な限り自己決定を意識して声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	●利用者様のペースや一人一人の身体機能を意識し、サービス提供側のペースにならないように管理者と始めとし、計画作成担当者、ホールリーダーが焦らず業務を行う事を意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	●対象となる利用者様が身に付けたいものなどは可能な限りご意向に添い支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	●利用者様事に嫌いな食べ物、好きなものや食べられるもの、食べられないものがあるのでそれらの情報の共有や周知を行い、食事をとる時間が有意義になるように心がけている。 ●食事後は職員と利用者様全員で後片付けを行い家事参加を促している。	メニューは職員が作成しているが、買出しの際の同行利用者の選択や、移動販売での希望、他施設からの差し入れなどで食材を確保し、食事を提供している。調理は利用者と共に、盛り付け、配膳、後片付けも同様である。季節や郷土料理、ドライブでの外食など、沿岸の食材を生かしたわかめ、サンマつみれ、寿司などを味わい楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	●利用者様により自発的に水分摂取が可能な方や声掛けが必要な方がいらっしゃるの、それらの把握や情報の周知を行い、糖尿病の方などへのカロリー摂取制限に関しては定期的な通院の際の結果を基に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	●食事後は口腔ケアを行い、利用者様ごとに見守りや介助を行い、口腔内の状態や痛みなどの有無に関しての確認を行っている。必要時には通院の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	●利用者様ごとに時間ごとにトイレへの声掛けや付添を行い、出来る部分に関しては見守り等を行いオムツ等の種類の検討に関して職員で申し送りなどの機会に話をして変更もしている。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、さり気なくトイレ誘導している。自立を支援するため、見守りを主体に介助している。利用者の排泄やリハビリパンツの使用状況は、朝、夕の申し送りで確認し、それぞれ対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	●便秘の方には腸を活発にする食物やプルーンなどを使用したり、一日の水分摂取量を増やすために夜間帯での水分摂取を促したりして対応をし主治医への相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	●可能な限りは入浴されたくない時には時間をずらすなどして入浴をし個々に合わせた入浴サービスを提供するように心がけている。	二日おきに入浴できることを基本にして支援している。入浴の介助は、自立を目指し、体拭き、着替えなども各自の能力で行なっている。入浴の際は、昔話や歌を歌うなど、楽しいものとなっている。入浴拒否者には、タイミングを見たり、話題を変えたりしながら状況により誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	●利用者様が夕食後に眠くなってきたら終身介助を始めるなどして、夕食後にはゆったりとした時間の提供を念頭に置き業務にあたっている。 ●昼寝なども可能な限りご本人の意向に添えるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	●通院において内服薬の変更などあった際には申し送りや業務日誌に記録として残して、情報の共有・情報の周知を行い理解に努めている。 ●飲み始めて体調に変化等があった際には主治医やかかりつけの薬局に連絡をとるなどして対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	●可能な限りは利用者様に家事参加をして頂き出来る力の維持向上やエンパワメントにおいて意識して接している。外出やレクリエーションを行う事で気分転換をする機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	●可能な限り、利用者様方の要望(外に出たい、散歩に行きたい、畑をいじりたいなど)に対応できるように心がけている。施設内の周りの散歩を行う事で利用者様の表情や精神的な部分に関してプラスの傾向が見られている。	天気の良い日の外出ばかりでなく、ウッドデッキでのプランター植栽、日向ぼっこなどを通して外気に触れる機会を確保している。外出のドライブは、漁港見学、花見、紅葉などに出かけ、ソフトクリームなど外食をしている。家族のと墓参りや外泊する利用者もいる。	職員の勤務体制、日程調整等により、利用者や家族の要望等に配慮し、周辺の散策や畑での作業など、より一層の外出の機会を確保し、利用者の気分転換やサービスの向上を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●利用者様がお金を持っていないと不安であるという気持ちの部分に関して職員全体で理解をしている。 ●一緒に出掛けるなどして、買い物に同行する機会を設け利用者様も笑顔が見られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●ご家族様からの手紙を読んで頂いたり、利用者様自身が手紙を書くなどしてやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	●温度や湿度に関して以前よりも気にしながら業務を行うようになった。 ●季節ごと月ごとに行事の写真をはり、利用者様が見える位置にカレンダーや暦を張る事で理解につなげられるようにしている ●汚れた場所などを職員自らもしくは利用者様が清掃している。	無垢の木材を利用した木のぬくもりとさわやかな香りの施設で、高い天窓と南向きのドアから差し込む柔らかい光のなか、広々と配置されたロビー、和室、仕切りのない事務室など、開放感のある明るい施設となっている。エアコン、パネルヒーターで空調管理しているが、利用者エアコンの風が直接当たらないように留意している。空気清浄機、加湿器が設置され、行事参加写真や鉢植えなどに囲まれた清掃が行き届いた快適な環境のもとで過ごすことができる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	●利用者様事で折り合いが悪くならないような席の配置や状況を勘案し席替えを行っている ●一人になりたいようなときには自室で安らいでいただきそのことを職員は情報を共有し、声掛けや見守りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	●ご本人が在宅や入所以前に飾っていた写真や仏壇などの思い出があるものをホーム内での居室に置くことで安心して居心地良く過ごして頂いている。	温度はパネルヒーターで管理され、ベッド、タンス、ハンガーが設置されている。衣装ケース、イス、車椅子、手押し車のほか、ラジオ、家族写真、仏壇などは、それぞれの意向により持ち込み、居心地良い環境となっている。部屋で趣味の琴、書道をたしなんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	●利用者様自身で動いて頂き、分かる事出来ることはご自身で行って頂き、分からない点や出来ない部分に関してご本人が持っているプライドや自信が損なわない様にお手伝いをさせて頂いている。		